

第 13 回日本臨床腫瘍学会学術集会

テーマ	分子標的治療薬の有害事象対策
企画について	近年、様々な分子標的治療薬が開発され、次々と臨床の現場に導入されている。分子標的薬の種類は多岐にわたり、今までに経験したことのない有害事象も多く、その対策は重要である。有害事象の管理は医師、看護師、薬剤師が協同して行う必要がある。本セッションではチームとして分子標的治療薬に対する有害事象対策を議論したい。
司会	澤 祥幸 先生（岐阜市民病院 呼吸器科・腫瘍内科） 山田 みつぎ 先生（千葉県がんセンター 看護局）